

岡山県立井原高校

「井原高校ふれ愛まつり」 & 「井原の鬼まつり」 高校生が地域の伝統・文化の継承に貢献するコラボ企画！

取組等の概要



江戸時代から伝わる「井原の鬼まつり」。

井原市井原町で開催される秋のイベント。別名「鬼まつり」。華やかな衣装をまとった約150人の鬼たちが、神社までの約2 kmの道のりを練り歩く。地元4神社の御神幸の先払いとして始まったこのパレードに、井原高校生たちが「絵ぶた・帆」を載せた山車の引き手や強面の「鬼」として参加しています。この「絵ぶた・帆」もまちづくりの方々からの要請を受けて、井原高校生たちが修復しリニューアルしたもの。「鬼まつり」を通して、地域の伝統・文化が高校生たちに継承され、高校生たちのパワーが「鬼まつり」に活気を与えています。

同日開催されているのは、学校行事である「井原高校 ふれ愛まつり」。昨年度から会場を南校地に移したが、園芸科の生徒達が育てた農産物、家政科の生徒達が作成した井原デニム製品やおこわ、焼き菓子などの販売だけでなく、PTAのバザーや生徒会を中心としたステージやゲームコーナーなど、子どもからお年寄りまでが楽しめる企画がいっぱい。この「ふれ愛まつり」を楽しみに会場に足を運ぶお客さんも多く、「鬼まつり」と融合して盛り上がりを見せています。「鬼まつりの日にあわせて、子どもや孫たちが帰ってきてくれるようになった。」という声も増えています。

取組の経緯

井原町は井原市の中心商店街としてかつては大いに賑わい、「鬼まつり」も盛大に行われていました。しかし、人口減少や少子高齢化のなかで、まつりへの参加者も減少の一途をたどり、かつての賑わいを失った「鬼まつり」は存続が危ぶまれるようになりました。主催する「井原町まちづくり会」をはじめ、地域の活性化を願う人々から高校生のパワーでまつりに再び活気を呼び込んでほしいとの要請があり、井原高校は、平成22年から取組を始めました。井原高校が手がけたのは、鬼や「山車」の引き手となってパレードに参加すること、老朽化して傷んでいた「絵ぶた」や「山車の帆」を修繕し、山車を華やかに彩ること、会場でバザーやアトラクションを実施し集客を図ることの三つ。そのために、かつて11月に校内で実施していた「地域ふれあいデー」をリニューアルし、「井原高校 ふれ愛まつり」として井原市総合福祉センター周辺を会場として同日開催することにしました。現在、10月第4週の日曜日に開催される「井原高校ふれ愛まつり&鬼まつり」は、高校生にとっても地域住民にとっても地域の伝統・文化を感じることでできる秋のイベントとして、定着しています。